四国・水こぼれ話
Water Information Saloon Shikoku
談話室 Vol 102

四万十川よ永遠に

高知県　中土佐町長
池田（いけだ）　洋光（ひろみつ）

全長 196 ㎞、数多くの支流を集め四国山地から土佐湾に流れ込む清流四万十川。

平成 18 年 1 月 1 日、今や全国ブランドとなった四万十川上流部に位置し、農業や林業など南北に蛇行しながら流れる川に沿って発展してきた大野見村と、太平洋に向かって開け、漁業と温暖な気候を利用したハウス園芸などを中心に発展してきた中土佐町が合併し、人口 8,320 人、面積 194 ㎢、森林面積 90%の新生・中土佐町が誕生しました。

旧中土佐町は、「土佐の一本釣り」に象徴される鰹を主人公とした町づくりを進めてきましたが、この度の合併で四万十川のような一級河川の上流部と太平洋が一緒に存在する珍しい地理的条件が整ったため、町の中心である久礼から 20 分足らずで源流域へと移動でき、交流人口の拡大を図る上でより厚みのある政策を展開できるようになりました。地区内には、本流中最上流に架かる高樋の沈下橋をはじめ、3 つの沈下橋が現役で活躍しており、住民の生活を支えるとともに観光客の注目を集めています。

そんな四万十川にも大きな危機がありました。戦後間もない昭和 25 年、経済復興に欠かせない電力需要に対応するため、国と県は大野見地区にダムを建設する計画を発表しました。村の面積約 100 ㎢の 70%が水没するというとてつもない大きなこの計画に、執行部、議会、青年団、村民一丸となって反対運動を展開し、ついに計画を断念させたのです。そうした先人の苦労があって四万十川は現在も悠久の流れを保ち、飲料に、灌漑用水に、様々な動植物の命を育むとともに、地域はもとより全国の人々に潤いと安らぎを与えています。

町ではこの清流を保全するため、毎年四月に各種団体や住民、行政が一体となって四万十川の一斉清掃を行うとともに、土砂災害を抑制し、豊かな水量や水質を守るため人工林間伐の促進を積極的に図っています。また、四万十川の素晴らしさを多くの方に味わっていただくため、アメゴの釣り大会「アメゴ釣りな祭」の開催や、各種の施設整備を行っています。7 月にリニューアルオープンした宿泊施設「四万十源流の家」では、本館の他コテージがあり、長期滞在や合宿などにも安価でご利用いただけます。カヌー体験が人気の天満宮前キャンプ場は、この秋総檜造りの休憩所と水洗トイレ、温水シャワーを完備した新施設が完成し、来シーズンには快適な川遊びをより多くの皆さんに満喫していただけるものと思います。

これからも、清流四万十川を官民一体となって適切に管理し、都会では手に入れることのできない宝を末永く守っていく所存です。

アメゴ釣りな祭の様子

四万十の文化的景観